

## B—11 被服技術検定における疲労度の研究 (第5報)

東海学園女子短大 ○西条 セツ  
名古屋市立女子短大 高橋 春子

1. 1報～3報までは、全国校長協会主催の技術検定を行なう機会にフリッカー測定器により、眼の疲労状態を3時間の作業中毎時測定したが、今回は同様にして5時間作業において測定した。

2. A 和裁(2級)の技術テストは、高校被服科の生徒22名につき作業と同時に測定した。

同材料は(大裁女単衣)木綿浴衣地 36cm幅×11mを使用し、ミシンおよび手縫仕立とし、所要時間は午前3時間、午後2時間計5時間である。

B 洋裁(2級)の技術テストは、同科の生徒21名につき測定した。同材料は(女兒服)綿ブロード 40<sup>1/8</sup>×40<sup>1/8</sup>で色は水色で、ミシン仕立とし所要時間は和裁同様。

3. 既報の1日3時間作業の場合、フリッカーの変化

型は6種に分類されたが、今回の5時間中の前半3時間においては、4種の型を示すものが多かった。更に午後の2時間のフリッカー変化型は、3回の測定値なるため、第1型、第2型は他の型に混在して4種の型であった。

和裁のフリッカー値は洋裁のそれよりも高く、休憩効果の型は下降型63.6%、上昇型31.8%、平行型4.6%である。洋裁では下降型14.3%、上昇型71.4%、平行型14.3%で、洋裁では1時間の休憩で機能的な効果が出ているが和裁はない。